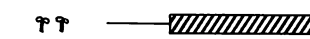
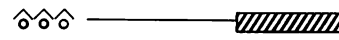
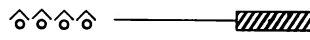


トマトの栽培

トマトは家庭菜園の人気者ですが、病気が多いので栽培にあたっては注意が必要です。日当たりがよく、有機質に富み耕土の深い所が適します。品種を選べば鉢作りでも楽しめます。連作はさけましょう。

作型と品種

	4月	5	6	7	8	9	品種
購入苗							果皮の色で桃色系、赤系、緑系等、果実の大きさで大玉、中玉（ミディ）、ミニトマトなどに分類され様々な品種があります。
直まき							
鉢植ミニ							

いずれの場合も耐病性の強い品種を選択する

○ = は種 へ = ホットキャップ（防寒） ㊦ = 定植  = 収穫期間

栽培のポイント

1. 定植の時期は地温が15℃以上になり晩霜の心配がない5月に入ってから行います。
2. 株間45cmぐらいで、深植にならないようにし、支柱をたて結束します。
3. 元肥を多くやると茎や葉が繁り過ぎ、実付きが悪くなるので追肥を重点とします。
4. 元肥には1㎡あたり石灰250g、堆肥等3～4kg、化成肥料50gぐらいが適当です。
5. 1回目追肥は活着後、2回目は1段目の花房の果実が肥大し始めた頃、化成肥料を1㎡あたり50gぐらい与えます。
6. 整枝は主枝1本だけ残し、各節からのわき芽は全部早めに取ります。普通4～5段まで収穫しその上の2～3枚の葉を残して主枝の先を摘芯します。
7. 乾燥すると病害虫の多発や、実のふとりが悪くなるのでマルチングや灌水を十分行い、反対に多湿になる所は高畦作りにします。
8. 結実を確実にするには、トマトーンなどのホルモン剤を散布すると効果があります。

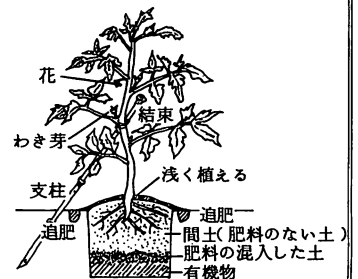
病気と対策

青枯病、萎凋病 — 連作を避け、土壤消毒を行い、抵抗性品種を選びます。

ウイルス病、モザイク病 — 抜き取って焼却し、他への伝染を防ぎます。

尻腐れ病 — チッ素肥料を控え、石灰を与え、土壌乾燥を防ぎます。

疫病 — 登録のある殺菌剤を散布します。



植え付け



青森市植物公園